

令和3年度第1回立川市第3次観光振興計画協議会 要旨

会議名称	立川市第3次観光振興計画協議会
開催日時	令和3年8月23日（月曜日） 午後7時00分～午後9時15分
開催場所	立川市役所302会議室
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 産業文化スポーツ部長挨拶 3. 委嘱状伝達 4. 自己紹介 5. 会長選出・会長挨拶 6. 副会長選出・副会長挨拶 7. 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 立川市第3次観光振興計画協議会について (2) 立川市第3次観光振興計画の位置づけ・構成について (3) 立川市第3次観光振興計画の進捗状況について ①シェアサイクルの導入について（施策5-2、6-1） ②立川観光協会ホームページリニューアルについて（施策4-1） ③一般社団法人立川観光コンベンション協会設立について（施策4-3） ④令和2年度の来訪者数等について（施策5-3） (4) 意見交換 8. その他
配布資料	<ol style="list-style-type: none"> 1. 立川市第3次観光振興計画協議会について 2. 立川市第3次観光振興計画の概要 3. 立川市第3次観光振興計画の進捗状況について 4. シェアサイクル導入の取り組みについて 5. 立川観光協会ホームページアクセス解析レポート 6. 一般社団法人立川観光コンベンション協会の設立について 7. 令和2年度の来訪者数等について
出席者	<p>[構成員]</p> <p>会長 岩崎太郎、副会長 岩下光明、田中光徳、片桐庸行、戸島慶太、穂積計人、清水哲夫、青木祥民、木嶋雅史、千葉雄太、前田千歳、矢ノ口美穂（産業文化スポーツ部長）</p> <p>[事務局]</p> <p>奥野武司（産業観光課長）、津崎政人（観光振興係長）、菅野賀陽（観光振興係）、太田眞実（観光振興係）</p>
話題提供者	<p>立川市交通対策課</p> <p>（庄司交通対策課長、有馬自転車対策係長、梶自転車対策係主事）</p> <p>一般社団法人立川観光コンベンション協会事務局長 田島氏</p>
公開及び非公開	公開
傍聴者数	0人
会議結果及び要旨	<ol style="list-style-type: none"> 1. シェアサイクルの導入について報告事項と、意見交換を行った。 2. 次回日程は令和4年2月に開催予定とする。
担当	<p>産業文化スポーツ部産業観光課観光振興係</p> <p>電話 042-529-8562</p>

1. 開会

2. 産業文化スポーツ部長挨拶

昨年来、皆様ご存知のように新型コロナウイルス感染症拡大で、観光どころではないという実態もある一方で、私はやはりこの「観光」というのが大きいキーワードだと思っている。

観光の「光」を、なぜ旅行に行くの「行」ではなく光と書くのかというのは、その土地ならではの光・魅力を見つけるのが観光だという語源だと言われている。

こんな時だからできること、多彩なキャリア、様々なご経験をお持ちの皆様に多面的な意見をいただけるのがこの協議会だと思っている。

数少ない限られた機会ではあるが、立川市の愛着を深めていただけるよう、ぜひ立川市の観光がこれからも持続可能でいられるように、忌憚なきご意見をいただければと思う。

3. 委嘱伝達

4. 自己紹介

5. 会長選出・会長挨拶

互選により、岩崎太郎委員が選出された。

6. 副会長選出・副会長挨拶

互選により、岩下光明委員が選出された。

7. 議題

(1) 立川市第3次観光振興計画協議会について

(事務局)

第2次観光振興計画協議会までは、計画の策定に携わった時点で協議会が終了していたが、第3次観光振興計画協議会からは策定して終わりではなく、推進する中で引き続き情報や意見を交換できる場として開催していく。委員には推進する取り組みに対して、それぞれの見地からご意見をいただきたい。協議会の任命期間は令和3年8月から令和5年3月までで、回数は年度内で2回開催の計4回を予定している。

設置要綱の第5条に必要があると認めた時は、委員以外の者の出席を求められることができると記載されている。今後協議を進めていく中で、要望があれば事務局まで申し出ていただきたい。

(2) 立川市第3次観光振興計画の位置づけ・構成について

(事務局)

資料では、立川市第3次観光振興計画が市の計画上どのように位置づけられているか、また、関連する国や東京都の計画との関係性を示している。立川市の最上位計画である第4次長期総合計画は平成27年度から令和6年度までの10年間を計画期間とし、まちの将来像として「にぎわいとやすらぎの交流都市 立川」を掲げている。

10年間の長期総合計画を5年ごと、前期と後期に分けて施策ごとの目的や方向性などを示したものが基本計画であり、現行の第3次観光振興計画は、令和2年5月に改定された後期基本計画の下に位置づけられる個別計画となる。

立川市第3次観光振興計画は、第1章から第7章、及び資料編で構成されている。第1章は、立川市第3次観光振興計画の策定の趣旨、計画の位置づけ、計画期間について記載。

第2章は、立川市の将来見通しと、観光振興の必要性についてまとめている。観光振興に取り込むことが地域の産業や経済を活性化するだけでなく、市民の地域への誇り・愛着の醸成につながるものであり、総合的なまちづくりに結びつくことを示している。

第3章は観光振興による目指す将来像を掲げている。メッセージとしては、「あなたの“好き”と出会えるまち 立川」としている。立川市には全国的に有名な観光スポットはないが、多くの観光資源を挙げるができる。例として、市内で一番の集客を誇る国営昭和記念公園、立川駅周辺の大型

商業施設や多種多様な魅力のある個店の集積、モノレール沿線の大型商業施設や様々なプロスポーツの開催場所となっているアリーナ立川立飛、国立極地研究所や国文学研究資料館などの国の教育・研究機関、さらに、昨年度オープンした「GREEN SPRINGS」等の商業施設もある。特産品のうどを地下で育てている「うど室」や地域の自治会や商店街などが行うお祭りやイベントなども観光資源になりうる。

立川に住んでいる我々にとっては、どれも日常生活の一部であり、特別なものといった印象はないかもしれないが、立川市を訪れる方にとっては珍しく、新鮮と思えるようなものであれば、十分観光資源になりうる。旅行の目的も有名な名所・旧跡など多くの人が知っている場所を訪ねる物見遊山的なものから、自分の興味や関心があることを体験し、そこでの交流を楽しむといった体験型の観光が進みつつある。

そのような観光を取り巻く環境の変化を踏まえ、これからの観光は温泉やテーマパーク、歴史や由緒ある名所・旧跡といった「非日常」的な資源だけでなく、その土地に住む人にとっては日常でも、他の地域から来た人にとっては魅力的であれば、それは異なる日常「異日常」として人を呼び寄せる力になりうる。そこで重要になるのは、住んでいる市民一人一人が地域に対して愛着と誇りを持ち、そこでの暮らしを楽しく豊かに過ごしているという日常があることである。立川に住んでいると、買い物も便利でおしゃれだって楽しめる、自然も満喫でき、アートもスポーツも音楽も、まんがやアニメも楽しめる。様々なイベントも行われており、興味あるイベントに行けばなんとなく居心地がよく、同じ価値観を共有し合える仲間にも出会える場所となれば、外から見ても魅力的に映る。立川市を訪れてもらうためには、自分が好きなテーマで感動・共感体験ができるエンターテインメントなコンテンツが豊富なまちを目指すことが大事であると示している。

第4章は国や東京都、旅行の動向についてまとめており、こちらは新型コロナウイルスの流行により、順調に成長してきたインバウンドが消費額はほぼゼロとなり、国内旅行も人流抑制施策のために旅行者数が大きく減少しているなど、前提条件として記載した内容は根底から覆っている。

一方で、広域移動の制約や自粛が求められるなか、近隣地域に魅力や楽しみ方を見出して旅行需要につなげるマイクロツーリズムの促進が今、コロナ禍を乗り切るトレンドとして注目されている。

第5章は前計画の進捗状況、来訪者の傾向、観光資源、イベント等の状況、観光振興の推計値、観光振興における課題について記載。推計値については、コロナ禍の影響を強く受けており、この状況が終息するまでは来訪者数の増加は見込めないと考えている。

第6章は目指す将来像の実現に向けた取り組みの方向性を示している。第3次観光振興計画で新たなポイントは、「施策4-3（1）デジタルマーケティングに基づいたシティプロモーションの展開」や「5-3（2）データに基づくマネジメント体制の構築」などである。経験や勘だけでなくデータに基づいた施策決定ができるようにしていく考えを盛り込んでいる。

また、現在指標として掲げている来訪者数や観光関連消費額をより地域の実態に基づく数値に改善していきたいといった考えもある。

第7章は計画の推進体制と各主体の役割について整理している。

（3）立川市第3次観光振興計画の進捗状況について

① シェアサイクルの導入について（施策5-2、6-1）

（事務局）

資料3「第3次観光振興計画の戦略と施策マネジメントシート」の中で大きな動きがあった取り組みについて、次第に記載している①～④の順に説明していく。「①シェアサイクルの導入について」は、「施策5-2（1）ひとにやさしいまちづくりの推進」及び「施策6-1（2）広域周遊環境の整備」に関連するものとなり、交通対策課と産業観光課で連携して検討・調整を進めてきた。中心となって推進している交通対策課より、事業の進捗状況の説明をお願いしたい。

（交通対策課）

令和3年2月8日にこの協議会で自転車と観光をテーマとした施策の検討ということでご意見を頂戴し、今日はシェアサイクルのデータ活用についてということで、資料を用意させていただいた。シェアサイクルの導入に向けて、順調に話が進んでいる。

配布した資料の趣旨として、シェアサイクルの事業者の選定や手続きを進めて行くと同時に来年度以降、シェアサイクルの実施後のデータをどのように活用していくかというところが主に観光部門が関わってくるので、委員の皆様の意見を頂戴できればと考える。

(副会長)

利用者にとっては行政の区分は関係ないので、立川近隣の街と連携できるような事業者を選択していただきたい。若しくは、連携できるような形での貸し方を考えて欲しい。

また、都市型観光の目玉というのは、商店だと考えている。商業及び地域の活性化に寄与するために、商店の狭いスペースにも駐輪スポットを作る、若しくは店の前の歩道をそういった用途で使えるよう規制を緩和する等、駐輪スポットをどれだけ数多く作れるかが回遊性促進には欠かせないポイントになる。資金は民間、行政は規制緩和をとという様な検討が必要と思う。

(交通対策課)

事業者募集の段階で近隣との連携を想定している。近隣市との連携、特に立川を囲む8市との連携をしていくことを条件に入れている。

大きな店だけでなく小さな商店のことも踏まえた施策展開を事業者と調整し、制度設計をしていきたい。

(H 委員)

以前の職場が品川区にあり、品川区はドコモのシェアサイクルが近隣の区と一体で乗れるようになっていた。観光よりも生活で使用する需要が高かったように思う。通勤で急いでいる時に利用したことがある。

サイクルポートは観光施設だけではなくて、商店や飲食店を巡るような観光もあると思うので、コンビニの空きスペースにシェアサイクル等を数台設置すれば、観光でも生活でも両方利便性の高い利用の仕方ができるのではないかと。

(交通対策課)

コンビニエンスストアというような提案も事業者と相談しながら慎重に選び、提案できるようにしたい。

(副会長)

電動キックボードの社会実験が始まると聞いた。電動自転車と同じ部署で扱うのか分からないが、上手くミックスして利用できるとよいと思う。

(交通対策課)

電動キックボードは、事業者と警察等が協議中との情報が入っている。ただ、市では担当課がまだ決まっていない。担当課やシェアサイクルとの棲み分けの話がまとまった段階で、情報提供したい。

(事務局)

シェアサイクルについて、今回の協議会に学識経験者として入っていただいている G 委員に方向性についての意見や、自治体の事例を見た上でのご意見を伺いたい。

(G 委員)

データ取得について、どのエリアにどの位の密度で入れるかということが重要となる。また、ポートの部分だけのデータを取るのか、途中の移動経路も GPS でデータを取るかも含めて、どういう取り方をするかで話が変わる。ポートで取れるデータと、GPS で取れるデータでは全く質が違う。

立川の場合は、買い物の利用も観光とみても問題ない都市だと考える。ビジネス利用や、住民の利用をそれ以外と仕分けられれば、どこで借りてどこで返し、その間にどんな使われ方をされたのかは概ね分析可能だと思う。仮に GPS で経路が分かる場合の話だが、例えば 15 分に 1 回、5 分に 1 回位でデータを上げてもらう際に、どこまで個別の店に立ち寄ったかを見ると面白いと個人的には思う。

回遊の向上、また、どの位のエリアに人が立ち寄っているかといったことが、どういう規模でどういうデータを取れば分析できるかについては、有識者として貢献してみたい。

また、電動キックボードの話が出たが、電動キックボードがステーション型のシェアサイクルと

一緒に導入されるとどうなるかというところ、自転車の方はほとんど使用されなくなる。E スクーターは楽な乗り物なので、ほとんどがそちらに駆逐されてしまうのが実態。両方入れるなら少し戦略的に入れていく必要がある。

(交通対策課)

GPS を使って自転車がどういう道路を使用しているかというデータを生かして、例えば自転車ナビマーク、ナビラインに反映することも検討していきたい。観光部門と情報共有しながら、より良い方法を模索していきたい。

電動キックボードについても参考になる話をいただいた。また、意見を頂戴できればと思う。

(I 委員)

シェアサイクルを何のために導入するのかをはっきりさせるべきだと思う。ターゲットが駅に来る人なのか、住民に向けたものなのかで設置する駅、ポートの位置が変わってくる。ターゲットをどう設定し、どうしてやるのかが伝わらないと、協力してもらえない。

また、シェアサイクルによる健康面、環境面にも触れていたが、この資料からは読み取れない。

(交通対策課)

ターゲットについては、例えば国立市はほとんど公園に設置している。都内だと駅に近い道路に設置している。立川の場合は商業施設に来る人が多いので、そういったターゲットを中心には考えている。

一方で、公として駐輪場、公共施設にまずポートを設置し市が取り組んでいることを全面に見せながら商業施設等に展開していく流れで考えている。立川市は色々な性格を持っており、通勤、通学、商業施設に来ることもある。ターゲットは色々な目的で利用する人を考え、展開を考えていきたい。

健康づくりや環境についての側面は、自転車の活用推進計画の中で概念的に記載している内容である。数値目標はなく、自転車施策として取り組んでいる。そういう側面もあるという意味で説明させていただいた。例えば二酸化炭素の排出量がどうかということも、一般的に国の計画や東京都の計画でも触れているという説明だった。

補足すると、2月の観光振興計画の協議会の中で、ターゲットは立川市を来訪された方で、シェアサイクルを導入することで行動を変え、立川市だけでなく近隣市も含め、地域の魅力向上に寄与させるようなツールとしてシェアサイクルを検討中という説明をした。ターゲットについては、もう少し明確にし、導入を進めていきたいと考える。

健康づくりについて、シェアサイクルで得られるデータを健康づくりの分野でどう生かすについては担当課とも協議をし、仮説を立てた上で、データの有効活用できればと考えている。

(副会長)

シェアサイクルは観光目的で導入すると担当の部署からの話で理解していたが、ターゲットが明確でないと事業者の選定についても変わってくる。

私もシェアサイクルもレンタサイクルも使用するが、ビジネス的な利用だと、ほぼシェアサイクルの意味はない。レンタサイクルで借りて、元の場所に戻る位でちょうどいい。

シェアサイクルは色々な場所に置けるところがメリットだが、借りたいところに自転車が1台もない可能性があるというデメリットもある。また、人が貸し借りをしないので、そういった部分のサポートも面倒臭い部分でもある。その辺を明確にした方が良く考える。

(事務局)

補足すると、観光を主目的と説明していたが駅周辺にマザーポートという大きな台数を設置していきながら展開する。基本は観光目的がありつつ、実証実験という段階から入って、例えば住民の方がどれぐらい利用しているかという部分も全く視野に入れていないわけじゃないというスタンス。

まずは来訪者の方の足として使用するために導入する。そして、交通の要所として立川がどれぐらい人の移動を促していけるかという部分も見る。主目的は観光といっても問題ないというふうに考える。

ただ、住民の方にどの位利用されているのか、ビジネス利用がどの位あるかということも、デ

ータを取りながら探っていきたい考えがあると観光部門では認識している。

(交通対策課)

観光を主目的と考えているが、レンタサイクルの指定管理者の様子を見るとビジネスの利用もあることが分かっている。また、コロナ禍という状況も踏まえると、何かに特化するよりも例えば国立市だと通勤、通学に利用する人が多いということもあるので、総括的に導入していきたい。シェアサイクルの大きな目的が観光ということは間違いない。

(J 委員)

1 点目に行政課題として広域的な経済活動の促進を挙げているので、データとして利用者の住所、例えば市町村だとか、そういったデータを把握することで広域的な経済、例えば、立川市外からの利用が多ければ、広域的な経済活動促進に寄与していることが読み取れるのではないかと。

2 点目に例えば市内でこういったイベントが行われているかといった情報を把握することで、このイベントが行われる日には利用が伸びたという分析ができ、商業とか地域の活性化に繋がっているだとか、観光施設間の回遊性の向上に繋がっていると読み取れると考える。

3 点目にポートを設置する場所が駐輪場や公共施設ということで、今は試行ということだが、例えば駅等の利用しやすい場所に多く設置し多くのデータを集めることで、検証できるのではないかと。

(交通対策課)

イベントの関係だが、楽市等のイベントがある。通常の利用と違うデータを抽出ができるのかどうか分からないので事業者と協議し、どうすれば抽出できるか追及していきたい。

3 点目のポートについては、駅に近い方が利用者にとっては一番良い。鉄道事業者等にも話をしているが、駅に近い土地にポートを設置するのが難しい状況にある。そこは市が駐輪場の一部を開放してやっていく。また、民間事業者に対してポートの設置に向けて積極的に働きかけていく予定。

(E 委員)

立川駅ではベビーカーの貸し出しを行っているが、ベビーカーのメンテナンスや汚れた場合の対応等、課題がある。シェアサイクルも使用方法の案内の仕方をどうするのか疑問がある。駅の近くに置くとすれば、駅の係員に質問が来る場合もあると思う。

また、エキュート、ルミネ、グランデュオさんの方に利用者が行く可能性もあるので、アナウンスの仕方や、対応の仕方も1つ課題になるのではないかと考える。

② 立川観光協会ホームページリニューアルについて（施策4-1）

(事務局)

ホームページのリニューアルについては「施策4-1（1）観光ポータルサイトの構築」というものを掲げている。立川観光協会のウェブサイトのリニューアルし、来訪者の利便性・満足度に資する情報発信を実現すると共に、サイトへのアクセスデータを解析し、効果的なプロモーションを行えるようにしていくと掲げている。

市としては、検索サイトで「立川」または「立川 観光」と検索すると公的なサイトで最も上位に表示される立川観光協会のサイトパワーを上げていくことが効果的であると考えている。

参考資料として、資料5「立川観光協会ホームページアクセス解析レポート」を令和元年度と令和2年度の5月分を配布している。昨年度、ホームページのリニューアルを行い、令和3年度の4月から新しくなった。新型コロナウイルス感染症拡大前後を比較することができると考えている。2019年分の全てを確認したところ、花火大会関連、立川が舞台となっているアニメ「とあるシリーズ」のイベント関連、「まんぱく」という食のイベントの特設ページがある時期は多くのPV数を記録している。立川観光協会より、ホームページリニューアルのポイントや、サイトの分析を踏まえ、数字から見えていることなどについて、ご説明いただきたい。

(B 委員)

観光協会のホームページをリニューアルし、今年4月に新しく開設した。以前のホームページは運用開始から約10年経過しており、見にくい状況だった。デザインで不具合が出てきたという外

部要因やフラッシュの脆弱性、スマホ対応になっていないという状況だった。また、編集や修正を独自で行うことができず、スピーディーな情報発信ができなかった。昨年度、東京観光財団の補助金を使用してリニューアルし、爽やかなホームページになったと思う。今年度は多言語対応に向けて着手をしているところ。

アクセス解析のレポートについてはイベントがあるときにプレビュー数が跳ね上がるという傾向が読み取れる。花火大会、アニメイベント、最近は食のイベント「まんパク」が上位に入っている状況。また、スマートフォンでホームページを閲覧している人が一番多い。もっとアクセス数が伸びて魅力的な情報発信ができるようなサイトにしていかなければならないと考えている。

(副会長)

観光協会の推奨認定品のページってというのは、どこに表示されているのか。

(B委員)

スペシャルという表示のものがあると思うが、そちらでのカウントになっている。

(I委員)

アクセス解析レポートの最後のページの検索のキーワードについては、この検索キーワードがどういう人がどんな情報を求めているかはある程度想像ができる。

多分、Google Search コンソールとか出していると思うが、どういった層がというような集計等は何か出していたりするのか。

(B委員)

どの位の年齢層の利用者がいるという統計は現状では把握できていない。

(I委員)

目標数値みたいなものもあるのか。

(B委員)

目標数値は挙げていない。今はコロナ禍だが、インバウンドの需要等々が増えてきた場合には、そういったことも踏まえて集計もしていきたい。

(K委員)

ホームページは本当に見やすくなった。コロナ禍の状況が今年も続いており、観光財団で取ったアンケートによると、普段忙しくて手が回らない部分の情報発信のツールや、ウェブサイト、そういったところに力を入れている観光協会が多いことが分かった。

今年新しい取り組みとして街作りサポート事業を始め、区部は北区、多摩地域は八王子市観光コンベンション協会、町田市コンベンション協会、国分寺市、島しょ地域は八丈島から手が挙がり、課題を設定してマッチングを行い、事業に取り組んでいる。

ここで挙げられた課題はウェブマーケティングや、情報発信である。そういったことを実際に企業で取り組んでいる人が、観光協会の取り組みを支援していくこととなる。一気ににはできないが、着実に進めていくということが大事だと思う。

先ほどの自転車の取り組みも上手くデータが取得できれば、隠れた観光スポットも見つかるかもしれない。おすすめ自転車ルート等を載せていくのもありだと思う。観光協会が着手したのは良かったと思うので、引き続き観光財団で用意している補助金も活用して、改善を図っていただければと思う。

(J委員)

立川市で製作している観光パンフレットを例えばPDFでホームページに掲載するとか、そういったところから始めてみるのも良いと思う。

また、「まんパク」や花火以外にもこういうものが立川にはあるっていうアピールをしていくのも重要。

(事務局)

観光マップは立川市役所の観光ページに掲載されているので、リンクを貼るような形やデータをそのままダウンロードできるような形にできるのであれば、観光協会のホームページにも追加していける。

(H 委員)

新しいサイト拝見した。すっきりしていて、見やすい。より良くするために、市外の方が立川で観光する時に位置関係が分からないと思う。どこどこが近いか、どう組み合わせたら周りやすいかというようなものも必要。あと季節感、夏だったら花火やかき氷等、テーマで括って関連するような施設を魅力的に紹介するという取り組みも良いと思う。

(事務局)

ホームページにはまちの案内人のページがあり、活動の中にはルートの開発といったものもあったように思う。そういうものを分かりやすい形で見せていくのも1つの方法だと考える。

③ 一般社団法人立川観光コンベンション協会設立について (施策4-3)

(事務局)

「施策4-3 (2) MICE との連携」に関連する事項であり、MICE については立川商工会議所が中心となって進めてきた「立川 MICE」と連携し、大きな会議やイベントの誘致、実施の過程で市の PR に取り組むと記載している。

本年6月に立川 MICE の推進を目的として、立川観光コンベンション協会が設立された。本日は田島事務局長より、設立に関する詳細について、ご説明いただきたい。

(田島事務局長)

7月1日付けで立川観光コンベンション協会の事務局長として着任した。本協会の設立の経緯について2017年度から商工会議所が中心となって MICE 戦略についての調査、研究を行っていた。その後、立川での MICE 戦略の取り組みについての検討が行われ、今年6月16日に協会の設立に至った。

協会の目的は、MICE 開催によるビジネスイベントへの取り組み、DMO としての役割を担っていくこと。今年度は今立ち上がったばかりなので、MICE 誘致体制の整備、秋から予定しているエクスカージョンの実証実験を行う。また、会員の募集、市内事業所との情報交換、連携、こういったものが中心になっていく予定。

来年度は立川観光協会と合流し、包括的な活動を行う。立川の魅力を発信し、来街者の増加、おもてなし体制の向上、経済波及効果の最大化、こういったものを目指して活動を行っていく予定。

(会長)

コロナ禍の影響で東京都自体がこの MICE の戦略について、何か変更を考えているのか。例えば、MICE については、海外からのビジネスイベントの誘客というのが第1の目的だが、その辺の戦略を少し変えることを検討されているか。新しい動きがあるようなら、教えていただきたい。

(K 委員)

ハイブリットということが世界でも通常化している。それに合わせた形での事業の修正等は多少あるが、海外では力を緩めることなく MICE を行っている。都の有識者会議からも、東京はもっと発信すべきと言われていた。今までのやり方を大きく変えるという方向性ではなく、こういった感染状況が収束しない中でどう取り組んでいくのかというのは引き続き考えていかなければいけない。

来年の状況も不透明なところはあるが、東京都として MICE を縮小することは決していない。

(副会長)

観光協会との合流を目指してということは、何年か先に一緒になるという意味合いでよろしいか。

(田島事務局長)

来年の4月に観光協会と観光コンベンション協会が合流をし、一つの団体になるということを用意している。

(会長)

補足すると、来年4月の合流を目指して理事の選任等、運営についての協議をしている。協議の中で、観光協会が合流することについて今年中に臨時の総会という形になるかどうか不明だが、そこで会員に説明して合意をもらい、来年の4月の合流を目指すという形で検討中。

(副会長)

観光協会が包括している事業内容や趣旨の MICE 事業っていうのは、その中に含まれるようなもの。観光協会が一般社団化し、その事業部としてこのコンベンションなり MICE があるというイメージを考えていた。これからの組織組については、協議していくということによろしいか。

(会長)

前回の理事会で説明したが、観光コンベンション協会を法人として設立し、そこに観光協会の事業を移す形で考えている。組織的には新しくできたコンベンション協会の母体ということで進んでいる。観光協会の今まで携わってきた事業は、全てそこに移していくという形になる。

(事務局)

若干補足すると、これまで任意団体であった観光協会が担っていた業務、それを一般社団法人という形で新たに観光コンベンション協会を立ち上げて、本来 MICE は誘致等を中心とするコンベンション機能と、これまで観光協会が担ってきた業務、それが地域活性化に繋がるような DMO 機能になると思う。そういったものを両輪で観光コンベンション協会が今後担っていく形になるといったところで理解しているが、田島事務局長そのような説明でよろしいか。

(田島事務局長)

問題ない。組織上は観光部門と MICE 部門という括りで、コンベンション協会が統括してやっていくというイメージ。

④ 令和 2 年度の来訪者数について (施策 5-3)

(事務局)

中心市街地の来訪者数の比較ですが、コロナ禍で令和 2 年度の中心市街地の来訪者数はについては前年度より 1,210 万人減、観光客数につきましては 460 万人減となった。人流抑制の施策や、そういった動きが強く影響している。JR 東日本様や多摩都市モノレールの乗車人員が減少していることも一因であり、公共駐車場の利用者数についても下落。また、イベントなどの状況を見ても、ほぼ中止となっていた。観光スポットについても閉館している場所も多く、そういった影響が強く出ている。こちらについては経済産業省が出しているビックデータを集約して可視化するという地域経済分析 RESAS により抽出したデータも掲載している。データを見ると、立川市に来ている方が大きく減少しているということが読み取れる。また、滞在人口全体では 20.2%減少、東京都外からの滞在人口は 82.9%減となっており、やはり遠方からの誘客が大きく下がっていることが読み取れる。

また、宿泊者の分析を見ても、約 45%減少していることは読み取れる。減少という数値ではないが、4 の「2. 観光入込の状況」で目的地分析を行ったところ、立川市のエリア、国営昭和記念公園が昭島市のエリアで出たので、立川市と昭島市の 2 つのエリアで分析したが、圧倒的に国営昭和記念公園が多く、その他には、ららぽーと立川立飛、IKEA 立川などがある。こういった場所は NAVITIME というシステムで公共交通もしくは自動車という交通手段を選択し、検索した検索数の数になる。こういった傾向が立川市において読み取れる。

学識経験者として参加いただいている G 委員より RESAS の説明や、データの読み取り方のアドバイス、また、異なったプラットフォームのお話などをアドバイスしていただきたい。

(G 委員)

RESAS は無料で誰でも使用できるという意味で、非常に有効なツールではあると思う。例えば、立川市にどの位の人が居るかというのは、携帯電話の電波でデータを取得している。かなり信頼性が高いデータになっている。携帯電話を契約している回線の居住地を通信会社が把握しており、どこの居住者が居たのかということも分かる。

宿泊については有料サービスになるが、観光予報プラットフォームというものがあり、日本観光振興協会等を中心にサービスを提供している。自治体別に宿泊者数を過去 8 年分位公開しており、AI 等の技術を使用し、次の 6 ヶ月間の状況を予測しているという面白いサービスがある。

RESAS の中で、どんな目的地が検索されているかの機能では、結果を見るまでもなく、立川で検索されるだろうと考えられるような施設しか出てこない。個人店等の細かい検索は検索サイトのデータ後悔ポリシーもあり検索数が少ないと個人特定ができてしまう可能性があるため、一定程度の

検索数があるところしか出さないようになっている。

結局、IKEA やららぼーとといった、見るまでもなく検索されているであろう施設と、プラスアルファ位しか出てこないのが現実で、細かいレベルでは分からないという感じ。

各目的地は検索されている場所が、どこから検索されているのか、滞在している人がどこから来ているかというところは、グラフにしてしまうとよく分からないが、地図ベースの花火図では、視覚的にどの位の範囲から人が来ているのか月別に分かったりする。季節の違いも、ある程度把握可能かと思う。少し技術があれば API 機能でデータを抜き出すことや、加工して表示することも可能だと考える。おおよそどんな感じかということを描むには、十分な仕組みであるが、より深いマーケティングを行うとなると、なかなか浮き出てこないのが現実。そういったものは自分でアンケート調査をするなり、来訪者調査をして組み合わせてやっていく必要があると考える。

(事務局)

観光消費額と域内調達率、その地域内でどれ位域内調達しているかという話も RESAS の講義であったが、立川市地域だと調達率まで取る意味があるのか、取るとなるとそれなりの労力とお金はかかるが、取る意味というものはどれ位あるのか。

逆に必要ないレベルもあるのか、消費額だけで問題ないのか、その辺りについても教えていただきたい。

(G 委員)

立川市内で例えば農業、工業というような産業が市内の経済の中でウェイトが高ければ、例えばその地元の食材がレストラン等でどれほど使われているかというような意味合いで、そういったデータを取ることは重要。しかし、そうでもないということであれば、かなり手間もかかるもので、企業にヒアリングしてもなかなかデータは出てこないということもあり、消費データを抑えていけば問題ないと考える。

立川市はそれで問題ないと考える。これが地方都市といった観光や、いわゆる農業系のところが地域の経済で重要だというのであれば、どの位観光客に提供していくサービスが地元のリソースが使われているかというようなものを押さえていく必要があるかとは思ふ。立川市であれば、私自身がしっかり市内の状況を把握している訳ではないが、そこまで必要ないと感じる。

8.その他

(D 委員)

シェアサイクリングに関して、シェアにするのかレンタルにするのかはすごく重要なこと。GPS 等をつけて周遊のデータを取るということも一つだが、地元の商業施設を盛り上げるということで、協力してもらいポイント制にして、どこに行くか、行ったか分かるようなことも一つ考えてもよいのではないか。店にも協力してもらうことは、店のやりがいにもなると考える。

観光協会のホームページは、可愛らしいホームページになっていて良いが、携帯電話用の方のホームページはスクロールが長いというか、多いと感じた。立川市に興味がある人はどんなに深くても情報取りに行くが、遊びに行く候補の中で見るレベルで言うのであれば、本当に分かりやすくスクロールは短い方が若者には見やすいと思う。

パソコンのホームページの方は分かりやすく良いかなと思ったが、携帯電話の方は若者が見ると思うので、見やすく特集ページ等を組んで、知らない人達にも分かるようなものになるとより良い。

(F 委員)

シェアサイクルは安全管理が重要で国家資格がないと分解して整備してということができない部類の、手間もお金もかかる乗り物だ。役割分担というか、その辺の有り様が肝になってくると考える。始まりは小さく始まって、少しずつ改良していけるような余地を作って導入することが良いかと考える。

(会長)

初回で顔合わせができなかったことが残念だが、オンラインにも関わらず皆様から貴重なご意見がいただけた。次回はぜひ顔合わせての会議で、活発な意見交換させていただきたい。